

2. 火山の概況 (平成 15 年 4 月 10 日 ~ 平成 15 年 4 月 16 日)

雌阿寒岳では体を感じない地震が増加した。浅間山ではごく小規模な噴火があった(期間外の18日)、三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では中岳第一火口の温度が高い状態が継続した。諏訪之瀬島では噴火があった。

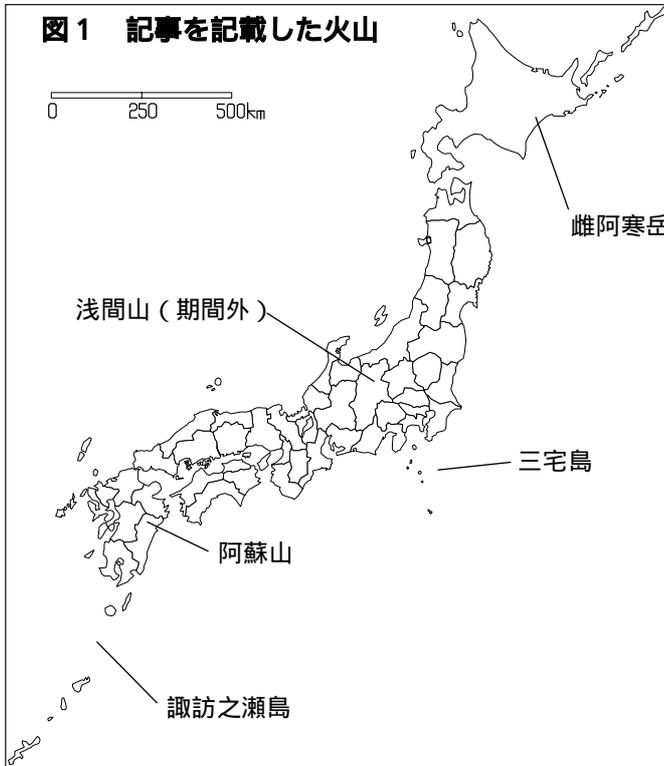


表1 最近1か月に記事を記載した火山

| 号 | 対象期間 | 雌阿寒岳 | 磐梯山 | 浅間山 | 御嶽山 | 三宅島 | 阿蘇山 | 霧島山 | 桜島 | 口永良部島 | 諏訪之瀬島 |
|----|------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-------|-------|
| 17 | 4/17- 4/23 | | | | | | | | | | |
| 16 | 4/10- 4/16 | | | | | | | | | | |
| 15 | 4/ 3- 4/ 9 | | | | | | | | | | |
| 14 | 3/27- 4/ 2 | | | | | | | | | | |
| 13 | 3/20- 3/26 | | | | | | | | | | |
| 12 | 3/13- 3/19 | | | | | | | | | | |

注1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

雌阿寒岳 [地震]

13日午後から、ポンマチネシリ火口直下の浅いところが震源と推定される体を感じない微小な地震が増加した。地震の日回数は、13日27回、14日69回、15日25回、16日61回と増減を繰り返し、比較的規模の大きな地震の発生は14日がピークであった。地震の日回数が50回を超えたのは昨年3月29日(139回)以来である(昨年の地震の日回数は0~数回、月回数は30回程度、今年に入り1月上旬及び3月上・中旬にやや多い日があり、月回数は1月204回、2月83回、3月223回)。

この地震活動に伴い噴煙等の表面現象に変化はなかった。

浅間山 [噴煙・微動] (期間外の18日12時までの状況を含む)

白色噴煙の放出は継続しており、最高は火口縁上200m(10、13、16日)であった(前期間200m)。10日17時06分ころ、噴煙の噴出の勢いが一時的に強まる現象が観測され、この現象に伴い、2月6日以降のごく小規模噴火発生時に起こると同様の振幅の小さい微動が発生した。

地震回数は、1日当たり10~20回で、これまでと比べ特段の変化はみられなかった。

GPS及び傾斜計による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

なお、期間外の18日07時32分ころ、ごく小規模な噴火が発生し、ごく少量の有色(灰白色)の噴煙が火口縁上300mまで上がり、東北東に流れているのを確認した。有色噴煙の噴出は数分後には収まった。軽井沢測候所の調査では、山腹の道路や居住地では降灰は確認されなかった。また、この噴火に伴い、継続時間約1分の振幅の小さい微動が発生した。今年に入り浅間山でのごく小規模噴火は4回目である(過去3回の噴火は2月6日、3月30日、4月7日)。

また、18日03時42分ころ、10日と同様に噴煙の勢いが強まる現象が観測されたが、明瞭な微動は観測されなかった。

噴火が収まって以降、18日12時現在まで、噴煙等の火山活動に特段の異常な変化はみられない。

三宅島 【噴煙】

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 600m (11 日)であった(前期間 600m)。
地震活動は低調であった。

GPS による観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は昨年夏頃からわずかな膨張に転じており、今期間もその傾向が継続した。

阿蘇山 【微動・熱】

減少傾向にあった孤立型微動*の回数は、今期間は 1 日当たり 14~36 回、合計は 159 回(前期間 117 回)であった。

地震回数は少ない状態が続き、1 日当たり 0~5 回、合計は 18 回であった(前期間 12 回)。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 300m (15、16 日)で、大きな変化はなかった(前期間も 300m)。

16 日に実施した中岳第一火口の観測では、赤外放射温度計による最高温度は 498 (前回(3 月 28 日)445)と依然高い状態であった。火口内の湯だまり**の最高温度は 66 (前回(3 月 28 日)55)でやや上昇したが、依然全面が湯だまり状態(湯の色は緑色)が続いている。

* 孤立型微動：火口直下のごく浅い場所で発生する継続時間の短い微動。阿蘇山ではこの微動の増減が火山活動を評価する指標の一つとなっている。

** 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50~60 の緑色のお湯が溜まっている(湯だまり)。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を吹き上げる土砂噴現象等が起こり始めることが知られている。

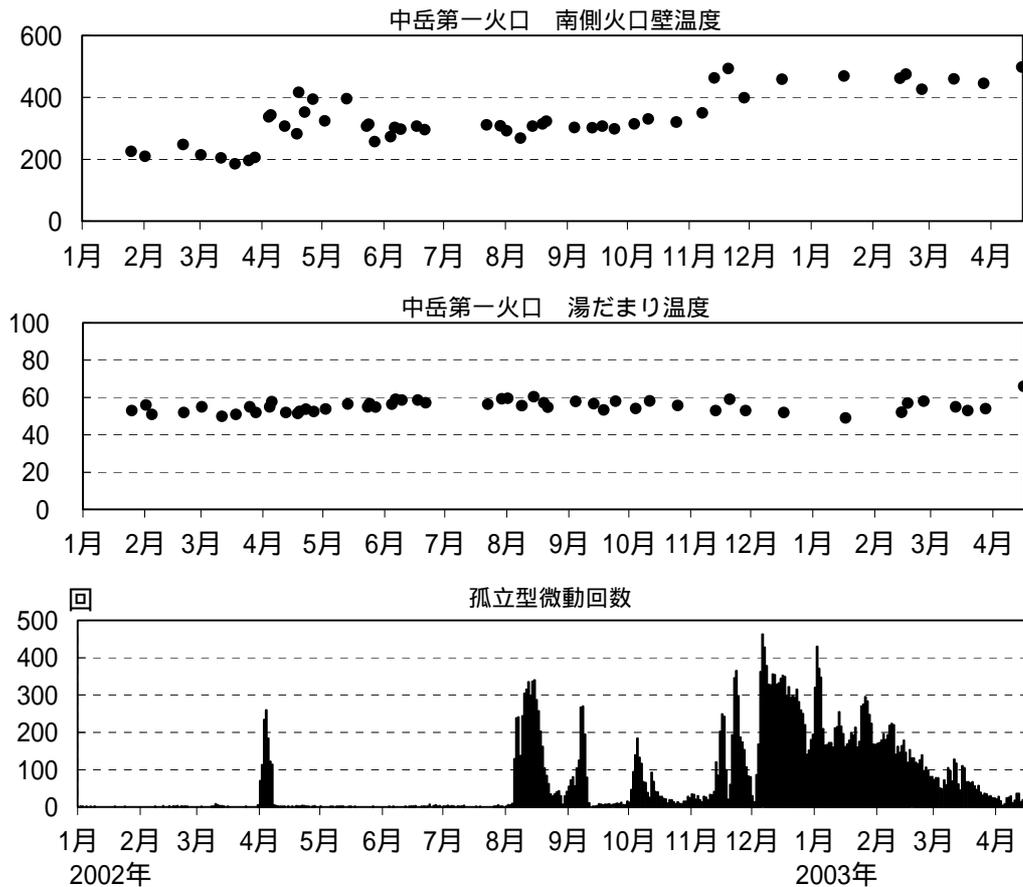


図4 阿蘇山 (上) 中岳第一火口の南側火口壁温度
(中) 中岳第一火口の湯だまり温度
(下) 孤立型微動の日回数
(2002年1月1日 ~ 2003年4月16日)

諏訪之瀬島 [爆発・鳴動・微動・地震]

16日に爆発が1回あった(前期間はなし)。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落(御岳の南南西約4km)では16日には朝から鳴動が聞こえた。降灰は確認されなかった。

期間中、継続時間の長い微動がたびたび発生しており、火山活動はやや活発な状態となっている。

11日にA型地震**が一時的にやや多くなり、日回数は23回であった(A型地震の日回数が20回を超えるのは2月3日の54回以来)。それ以外の日の発生回数は0~2回と低調で、一過性の現象であった。B型地震***の発生状況には特段の変化はなかった。

* 爆発：噴火の一形式で爆発的噴火の略。気象庁では、噴火に伴い発生した地震及び空振の大きさを基にして、爆発的噴火であったかどうかを判断している。

** A型地震：火山性地震(火山体及びその周辺で発生する地震)のうち、P波、S波の相が明瞭で、比較的周期が短い地震。火山以外で一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、火山活動に直接関係する発生原因の例としては、マグマの貫入に伴う火道周辺での岩石破壊が知られている(1990年の雲仙岳、2000年の有珠山・三宅島など)。

*** B型地震：火山性地震のうち、相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震。火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられているものもある。火山によっては、過去の事例から、火山活動が活発化すると多発する傾向がある事が知られている。

表2 火山情報発表状況(期間外の内容を記載した火山については、その期間に発表した情報を含む)

| 火山名 | 火山情報名 | 発表日時 | 概要 |
|-----|-------------------------|-----------|---|
| 浅間山 | 火山観測情報第6号 | 18日 09:00 | ごく小規模噴火の発生(有色噴煙の状況、降灰調査結果(降灰なし)、その他の観測データに異常なし) |
| 三宅島 | 火山観測情報第195号 (1日2回発表) | 10日 09:30 | 活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想) |
| | 火山観測情報第208号 | 16日 16:30 | |